

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470300720
法人名	有限会社 ホワイト介護
事業所名	グループホーム 箕田の北さんち
所在地 (電話番号)	鈴鹿市下箕田2丁目5番5号 (電話) 059-395-1177
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 7 月 26 日(木)

## 【情報提供票より】 (H19年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~70,000 円	その他の経費(月額)	22,000+実費 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000~1,000,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

### (4) 利用者の概要( 6 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85.2 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木病院(総合)、鈴鹿厚生病院(精神)、ホワイト歯科、留奥内科
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自己決定に基づく生活をする」ことを理念におき、常に自分の家庭を見るのと同じという意識にたった介護を目指し実践している。小規模デイサービスの併設により、馴染みながらグループホームへの入居が出来ること、別にゲストルームの居室が設けられており、納得のいくお話し体験ができるようにもなっているし、家族の宿泊も可能である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価ではアセスメントシートや介護計画書の整備を改善点とされたが、ケアマネージャーの交代によりアセスメントシートも整理され、一人ずつの情報をきちんと記録していた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は一つ一つの項目に真摯に向き合い、取り組みの事実を書き出し、受け止めているが、全職員への協議などはなされていない。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>6月に第1回を開催しており、8月に2回目を開催予定で、災害対策や地域との連携の図り方など討議していく予定である。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付方法として新たに目安箱の設置を図り、家族の意見を吸い上げる努力をしているのと同時に、家族会の開催などを通じて意見を聞くなどもしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>祭りなどには参加はするものの自治会への加入もしていないし、地域との交流と呼べるほどの付き合いはまだない。</p>
重点項目④	

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活を続けていくことを基本に「自己決定と自律」を理念として掲げ、それに沿ったケアを実践しているが、地域の中でという部分はこれからの課題である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「自分で決めたことは自分です」という理念を職員はよく理解し、その人の尊厳を第一に支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には参加をしていないし老人会などにも入っていない。地元の祭りなどには参加しているが、交流と言えるほどのものはまだない。	○	共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく方向を見出されることを期待したい。と同時に、地域行事の時などには積極的に声をかけてもらえるような取り組みも希望したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価ではアセスメントシートの不備や地域への働きかけ、苦情相談の受付方法などが改善点として挙げられているが、出来るところから少しずつ取り組みをはじめ実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回の運営推進会議を6月に開催し、会議への参加者の顔合わせと、今後の進め方について協議している。	○	8月に次回の会議開催予定であり、災害対策や地域とのあり方等、具体的な方針について話し合いがもたれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今のところ取り組みがなされていない。	○	保険者が広域連合となっているが、お便りを持参したり、現在のホームの様子などを積極的に伝え情報交換により市との連携強化を図って欲しい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な報告はお便りにコメントを書き添えて送付したり、何かちょっとした変化がある時には随時報告をしている。家族の来訪時には声かけにより頻繁な報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の方法として新たに玄関に目安箱を設置し家族の意見を広く吸い上げる努力をしているが、家族会開催時には今のところ苦情はないが、言ってこられれば対応はする。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来5年の経過で正職員の交代は3人しかなく、職員の異動による入居者への影響は少ないが、臨時職員の出入りは多く、現在はシルバー人材センターに応援を依頼、補助業務を担当してもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、施設全体の合同開催で年3回行っているが、外部研修については個人の裁量にまかされているのが現状である。	○	外部研修についても個人にまかせるのではなく、予算措置を講じるなどにより交替で受講し、全職員のステップアップにつながるような取り組みを期待したい。現在は職員数減による負担が大きくなっているようなので、その旨の配慮も欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	総合施設長の提案により同地区内の同規模施設(14～15施設)に声をかけ、地元スーパーの協力を得て一角を借用、利用者の作品展示をするなど、交流を活発化している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に併設のデイサービスの利用や、ゲストルームへの宿泊等で夜の生活行動パターンを把握し、利用者と職員、双方の理解と馴染みを作りながら入居に移行できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は出来るだけ多くの会話を持つことで、信頼関係を築くように努力している。利用者と職員は対等関係というより、むしろ職員のほうが人生の先輩としての利用者に教えてもらうという関係を持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントシートに問題点と希望を把握しているが、パート職員の入れ替わりにより、時に一貫性にかけた対応になることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書を作成し、ケアマネージャーを中心にして職員の協力体制が出来ており、家族等にも説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月に一度の見直しを行い、変化に応じて随時見直しをしているが、余りにも急変が激しい利用者には、ケアが先行し、介護計画書への見直し記載と家族への相談報告が後手に回る時もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの協力医への受診同行や、他施設に入居中の家族を訪問するための外出支援を行うなど、柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の従来からのかかりつけ医受診希望者については、家族の協力を得て受診に行ってもらっているが、当グループホームの協力医への受診については同行支援している。また、協力医は月1回の往診による医療支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為については限度があるので、現在のところ、終末期になれば病院へという形になっているが、症状の変化については把握をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人を大切にされた扱いを第一に、さりげない介助や言葉かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ちょっと待って」という言葉を言わないことを心がけ希望に沿う支援を日誌に記録し、その人らしい生活ができていくかを見ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設のデイサービスと共に給食事業者からレシピと材料の提供を受け、調理のみを行っている。月1回はグループホームで独自の行事食や郷土料理を作ったりしている。	○	将来的には自分たちで作った料理を食べるようにしたいという管理者の希望を活かせるような方向付けを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスが午前中で、グループホームは午後からの入浴となっているが、希望者にはいつでも対応しているし、汚れた場合などにはその都度支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダーめくりや洗濯物たたみなど、一人ひとりに役割を持ってもらい、能力に応じた対応をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族と共に外出することを基本としているが、全員で散歩にでかける時などには、近くのレストランで食事をするなど、できるだけ外出の機会を多くするように配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初から鍵はかけないことをモットーにしており、現在も実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、4月と10月に避難訓練を行い、消火器の使い方や火災、地震の想定による避難方法を確認している。	○	立地場所が津波指定地域になっていることを踏まえ、今後、地元消防団による協力体制や地域との連携体制の確立などへの対応見直しを希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては管理栄養士による献立で考慮されているし、食べていない人については記録を残し食事が確保できるよう支援している。水分補給についても、注意をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調査前日に職員で片付けられたとのことで、きれいに掃除が行き届き、居心地良い空間作りになっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうように家族に依頼し、協力を得ている。写真を貼ったりテレビや椅子を置くなど、その人なりの居心地の良い部屋作りになっている。		